



西発第 645 号  
平成19年4月27日

国土交通省道路局長 様

熊本県阿蘇郡西原村長 加藤 義明



中期的な計画の作成にあたってのご意見の提出について (回答)

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼がありましたこのことについて、  
別紙のとおり回答します。

西原村役場

TEL 096-279-3111

担当 産業課

松浦 哲也

### 道路政策に対する思い

道路政策に対して、都市部と地方の地域格差や認識の温度差を強く感じている。我々地方に住む者は豊かな自然を守り育てながら都市との共生を図っている。

そんな中で、地下水の保全、災害防止、国土全体の環境保全、また都市住民への癒しの空間の提供等、我々地方にしかない役割を充分果たしていると自負している。そのような地方の住民にも最低限の豊かな生活を享受する権利はあると思っている。そこに必要なものはやはり道路網の整備と考える。そんな時に「一日に何台しか通行しない道路に多額の建設費を投ずるのは・・・。」などの声が聞こえてくることは何とも悲しいことである。

平成15年南阿蘇の玄関となる俵山トンネルと関連のバイパスが完成した。総事業費百四十七億円の大事業であったが、これによって南阿蘇に夜明けが来たと言っても過言ではない。そして、その延長線上にある宮崎県、日之影町、五ヶ瀬町、高千穂町、果ては延岡市までもがその恩恵を受けている。

沿線には物産館が建ち村のお年寄達が庭先で作った安全野菜をせっせと出荷している。わずかな収入だが終りが近いと思っていたお年寄が新たな生き甲斐を見つけ完全によみがえっている。「命が足らん」の言葉がそれを物語っている。老人医療も下がり始めた。産業の振興生活の利便性の向上のほかに福祉の充実までもたらした功績は大きい。道路政策とは、そのように幅広い視点で見つめて行くべきである。

### 我が村の道への感謝

我が村には全国どこにも負けない伝統があると思っている。年に2回、地区によっては3回、住民が総出で草刈を中心に村中の県道、村道の全てを清掃作業する村の年中行事である。総延長約120kmを1700～1800名位で1日ばかりで仕上げている。約50年近く続いている伝統行事である。50年続くのもすごいが、殆んど住民が当り前の事だとの思いで淡々と汗を流すことが本当に素晴らしい。高い土手は5mの高さまで草1本なく刈り取られた道路はシンガポールにも決して負けないと思っている。この伝統は50年前、まだ車輛の主流が馬車だった頃、わだちがだんだん深くなって馬車が通りにくくなると、村人達は総出で川に砂利を集めに行って補修をしたのが始まりだと村の先達から聞いている。生活を支える道への村人の感謝の心が今の伝統を作っている。

村人に道への感謝の心が残る限りこの村は栄え続けるだろう。